

今こそ!

岩手の

底

チカラ

支援企業紹介

岩手県二戸市

株式会社夢実耕望

1



二戸市の株式会社夢実耕望は、健康食品の受託生産を行なう工場として平成13年に創業。質の高い製品づくりのほか、第一次産業の活性化をめざす新規事業や、地域に貢献する雇用・子育て支援の取り組みについて取材しました。

地域活性化の足がかりとして 高品質の健康食品製造

二戸市浄法寺町のゆるやかな丘陵地帯に広がる、3600㎡の健康食品工場「株式会社夢実耕望」。平成13年の創業以来、大自然や清流に恵まれた環境の中で、高品質の健康食品づくりに取り組んでいる。

旧二戸郡浄法寺町の清川町長のもと、岩手県では始めて導入された国の「地域活力創出事業」により誕生した同社。現在、同じ敷地内に社屋を構える製薬機械メーカーの岡田精工(株)(本社・東京都世田谷区)と、仙台市の健康食品会社サンケーヘルス(株)の出資により、製造用機械の製作と健康食品づくりの技術を兼ね備えた受託工場としてスタートした。創業から11年、現在では味の素(株)をはじめ、50社を超える企業の製品を取り扱っている。

工場は工程ごとの部屋に仕切られており、原料の混合、打錠、造粒、乾燥、検査、包装などが行なわれている。混合造粒機や整粒機など、岡田精工社製の機械ほか数十台の機械設備が稼働し、袋詰め製品だけでも1日3万袋の生産能力を誇る。

着色されたものが多い健康食品は、白色が多い薬品と違い機械で汚れやキズなどの検査を行なうことが難しい。そのため、一つひとつの製品が目視で丁寧に検査されるなど、質の高い製品づくりが行なわれている。

恵まれた自然環境を武器に 新事業を展開、地域貢献も図る

主力商品である健康食品製造以外の事業にも意欲的に取り組んでいる(株)夢実耕望。地域における一次産業の活性化をめざし、敷地内に立ち並ぶ十数棟のビニールハウスで栽培されている、ベビーリーフの販売等も注目を集めている。発芽間もない野菜の幼葉(ベビーリーフ)は、栄養価の高さや風味の良さから近年人気の高まりを見せる食品のひとつ。「安価ではありませんが、周囲の恵まれた自然環境や、品質へのこだわりを武器に、首都圏の百貨店などで販売しています」と久保田工場長。このファーム事業では、産業振興センターの農商工連携ファンドも活用している。コストがかかる商品ではあるが、良いものをやみくもに作るのではなく、販売戦略を兼ね備えた展開により実現に至っている。

今月の
表紙

株式会社夢実耕望の工場内、検査室の様子。
目視検査機により錠剤に汚れやキズがないか、一つひとつ目視で検査が行なわれている



2



4



6



3



5



株式会社夢実耕望

代表取締役 小林 金夫

【代表取締役】小林金夫

【所在地】岩手県二戸市浄法寺町明神沢

【電話】0195-39-1104

【FAX】0195-39-1105

【URL】<http://www.okadaseiko.co.jp/yumemi/>

1946年山形県生まれ。興亜製業(株)を経て98年に岡田精工(株)に入社、現在は取締役。2001年(株)夢実耕望創業に伴い取締役工場長に就任。05年同社代表取締役に就任。

ファーム事業のほかに、工場に隣接する「夢実の保育園」の運営も同社が行なっている。現在110名の社員のうち、女性は約6割。会社のすぐ側で安心して子どもを預けられると、従業員からも好評だ。従業員の家庭以外にも、地域の子どもの受け入れており、雇用の創出のほか子育て支援など、浄法寺エリアへの地域貢献度は高い。小林金夫社長の「地域にねぎした会社として雇用を増やしていきたい」という思いは強く、110名の社員を5年後には150名に増員する計画だという。

地元の特産品をサプリメントに 新たな挑戦に期待が集まる

工場ではおもに粉末から錠剤やカプセルを製造しており、粉末であればなんでも材料になるという。震災前は、県の沿岸部とのあいだで特産品を加工し、サプリメントとして販売する計画も持ち上がっていた。水産物や水産加工品の副産物としての、サメ軟骨などは健康食品としての引き合いも多く、実現に向けあと少しというところで震災に見舞われた。

青森県境ちかくの立地ということもあり、青森県特産のにんにくなどを持ち込んでサプリメント化を希望する農家も多い。試作なら原料1kg、量産化でも10kg程度の原料があればサプリメントを製造できる。浄法寺町周辺を見ても、雑穀などの特産品はもともと健康食品としての認知度が高い。「岩手には良い素材がたくさんあります。大切なのは、

それらをサプリメントにしたときに、販売する経路や戦略をうまく作ることですね。」と久保田工場長。古くから食べている雑穀に、商品としての魅力があるか疑問視する地元の方も多いというが、「雑穀を、手軽に摂れるサプリメントにすれば戦略次第で首都圏になら充分に売れる」と久保田工場長は見ている。大手メーカーからの受注のほか、今後は地元の特産物を生かした健康食品の発祥地としても期待が持たれる。



7



8



9



10

< P.2・3写真 >

1. 一定数の錠剤を瞬時に振り分ける道具で袋詰め作業が行なわれている
2. サンプリング検査の様子。1時間に1回の頻度でサンプリングされた製品の品質をチェック
3. スポーツ選手などプロ向けのサプリメント製造の様子。外国社製品ならではの大きなボトルに粉末を計量して入れ、ラベルを貼る工程までが丁寧な手作業で行なわれている
4. 粉末や顆粒を圧縮して錠剤にする打錠工程
5. 機械で品質検査をすることが難しい色付き錠剤
6. チュアブル、錠剤、カプセルなど、さまざまな色形の製品見本が並ぶ
7. 敷地内にはベビーリーフを生産しているビニルハウスが並ぶ
8. 事業所内保育園「夢実の保育園」。ここに子どもを預けて働く従業員も多い
9. 同じ敷地にある岡田精工(株)のエントランスホール
10. 工場を案内してくれた久保田工場長、創業まもなくから10年以上(株)夢実耕望に勤務している